

第7学年 学びの 카테고리 「多様性」



7年生は、「多様性」をテーマに探究するために、これまで探究してきたことをもとに、岐阜市のペットの殺処分の問題やゴミの削減などの身近な問題の解決に向けて取り組んでいる方との対話を重ねてきた。その中で、ある問題一つを取り上げても、それを解決するためのアプローチの仕方や考え方は、人によって様々であることを知り、多様な価値観や考え方を受け入れることの大切さを学習してきた。

7年3組は、人と人との関わりの中でさらに多様性について考えていくために、岐阜県障害者スポーツ協会の方や岐阜市役所市民生活政策課の方から話を聞いた。そういった経験を経て、「誰にとっても住みやすい社会にするために大切なことは何か」という探究テーマを作り出した。これまでに会った講師の方の話や実際に体験した経験をもとに、誰もが快適にすごせる社会をつくるためのアイデアを考えることを通して、「相手の立場に立って行動すること」の大切さに気づき、多種多様な人たちと共にどう生きるかを探究していく。



土開 敏真
磯谷 直毅
岡田 春香
平尾 龍平
水谷 直美

第7学年3組

年間指導計画

「学びのカテゴリー」：多様性（全85時間）

第7学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		人々との関わりを通して生み出された問いをもとに、多様な人々と共によりよく生きるために自分にできることを考え、やり切ることかできるようにする。									
	(2) 関係構築力に関わって		様々な人の意見や仲間の考えを肯定的に聞いたり、自分の考えを筋道立てて伝えたりしなから、対立やシレンマに対して、互いに納得できる考えを創り出し、双方の考えを取り入れたりしなから活動することができるようになる。									
	(3) 貢献する人間性に関わって		自分や身近な社会のよさに気づき、よりよい社会にするために努力する人々に敬意をもちながら、自分にできることを考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。									
カテゴリー設定の理由	第7学年では、これまでの「どう生きるか」の探究を行う中で知った諸問題について、解決方法を考え実践する活動を行う。問題の解決に向けて活動を行っている方々との対話を通して、多様な価値観に触れ、問題を多面的・多角的に考えていくことで、多様な人々と共によりよい社会にするための方法について探究していく。											
学びの基盤となる道徳的諸価値	相互理解、寛容・尊法精神、公德心・公正、公平、社会正義・思いやり、感謝・勤労・自主、自立、自由と責任・向上心、個性の身長・真理の追究、創造・国際理解、国際貢献・よりよく生きる喜び											
学びを構成する要素	障がい 仲間 世代 福祉 幼児 国際理解 伝統文化 違い 偏見 ユニバーサルデザイン 食品ロス 動物愛護 よりよいまちづくり											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名(時数)	身近な問題とどう向き合うか (30時間)					多種多様な人と共に生きる (40時間)				よりよい社会にするために (15時間)		
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○探究テーマを設定する。 ○様々な方との対話を通して、多様な価値観に触れる。 ○多様な価値観に触れる中で生まれるジレンマについて対話する。 ○問題解決の方法について、多面的・多角的に考える。 ○今後の活動の見通しを立てる。 ○夏休みの計画を立てる。 		ジェンダーの問いを捉え直し、解決に向けての取り組み			<ul style="list-style-type: none"> ○個人の探究内容を交流する。 ○シッティングパレー体験をする。障害はその人がもっている性質だけでなく、社会と人との関わりから生まれる障がい(偏見・建物・社会制度など)もあることを知る。 ○多種多様な人とはどのような人がいるのかを考える。「障がいの有無」「外国籍」「LGBTQ」「高齢者」など ○色々な人の立場にたつて共生について考えるために、講話や体験活動を行う。 ○色んな人の立場にたつて誰もが快適に過ごせる社会について考えていくかを決める(個人テーマの設定) ○多くの方が利用する岐阜駅や大学の施設などに行き、テーマに関する問題を発見する。 ○テーマに関する問題を解消するためのアイデアを考える。 ○岐阜市役所人権啓発センターの方にアイデアを聞いてもらい、アドバイスをもらう。 ○アイデアを岐阜市役所に持ち込み、提案をする。 				<ul style="list-style-type: none"> ○学びをどのようにまとめるか計画を立てる。 ○岐阜市に住んでいる方に伝えたいことを整理し、何を伝えるとよいか分析する。 ○岐阜市に住んでいる方へ、自分たちの想いを発信する手段を考える。 ○1年間のプロジェクトを振り返る。 ○今年度の学びを振り返り、キャリアパスポートを記入する。 		
想定される●ジレンマ■エラー【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> ●食文化によって、食べ物を残すことが悪いと思っていない人がいる。食べ物を残すことは本当に悪いことなのか。 ●落書きとアートの違いはどこにあるのか。自分たちが地下道や橋の下に絵を描くとしたら、どのようなことを考えるべきか。 ●ペットの殺処分問題がある一方で、ペットを売っている人はどのような配慮をしているのだろうか。 【尊法精神、公德心・公正公平、社会正義・思いやり・勤労・自主、自立、自由と責任など】					<ul style="list-style-type: none"> ●車椅子を後ろから押してあげることは、かえって危険なんだ。 ●障がいのある人が近くにいたら、サポートしていきたい。でもどうサポートすればよいか分からない。 ●設備や制度を整えても、社会に生きる人たちの意識を変えていかないと障壁は無くならないことがわかった。しかしどうすればよいのだろうか。 ●人によって得意なことや苦手なことが異なるように、社会的障壁も人によって違う。そういったものを無くしていくために大切なことはなんだろう。 【個性の身長、相互理解、寛容、よりよく生きる喜びなど】				<ul style="list-style-type: none"> ●岐阜市に住んでいる人々と共に、様々な問題と向き合い生きていくにはどうすべきかと葛藤する。 【相互理解、寛容・よりよく生きる喜びなど】		
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市保健所 ・猫カフェ ・鶏匠の家 ・岐阜市役所 					<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県障害者スポーツ協会 ・岐阜市役所市民生活政策課 ・岐阜県福祉事業団 ・行政書士大橋事務所 				<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市役所 		
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の人の生活と環境 中世の日本 ・美術：レタリング 暮らしにエコバッグ ・保健体育：スポーツの多様性 ・家庭科：私たちの衣生活 ・外国語：Friends in New Zealand 					<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の諸地域 中世の日本 ・美術：写真題材 ・保健体育：心身の発達と心の健康 ・家庭科：私たちの住生活 ・外国語：Foreign Artists in Japan Think Globally, Act Locally 				<ul style="list-style-type: none"> ・国語：情報を的確に聞き取る 情報を整理して書こう 聞き上手になろう ・社会：世界の諸地域 近世の日本 ・保健体育：心身の発達と心の健康 ・家庭科：私たちの住生活 私たちの成長と家族・地域 ・外国語：This year's Memories 		

7年3組 単元シート		本単元の目標		
単元名		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
多種多様な人と共に生きる (40)		身近な問題を解決するために、自分たちにどんなことができるか探究し、様々な人と出会い、意見を聞きながら、計画をたて行動を起こすことができるようにする。	様々な人の意見を聞くなかで生まれたジレンマに対して、互いに納得できる考えを創り出し、双方の立場を考えながら活動することができるようにする。	よりよい社会にするために努力している方への敬意をもち、問題解決に向けて自分にできることを考え、仲間と共に行動しようとする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子に乗っている仲間のサポートのしかたについて考える。 ・実際に障がいのある人の話を聞いたり、体験したりすることで、障がいのある方のことを考えていこうとする。 ・岐阜県障害者スポーツ協会の山内さんの協力のもと、シッティングバレーボールを体験する。 ・「その人の性質だけでなく、社会と人との関わりから生まれる障がい（偏見・建物・社会制度など）もある」ことを知る。 ・4組のなかまと合唱やⅡ部祭の練習をし、活動を共に楽しむ。(4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な人とはどのような人がいるのかを考える。「障がいの有無」「外国籍」「LGBTQ」「高齢者」など ・色々な人の立場にたって共生について考えるために、講話や体験活動を行う。「高齢者疑似体験」「行政書士大橋事務所の方の講話（LGBTQ）」「岐阜市役所人権啓発センター」 ・何に焦点を当てて誰もが快適に過ごせる社会について考えていくかを決める（個人テーマの設定） ・多くの方が利用する岐阜駅や大学の施設などに行き、テーマに関わる問題を発見する。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関わる問題を解消するためのアイデアを考える。 ・岐阜市役所人権啓発センターの方にアイデアを聞いてもらい、アドバイスをもらう。 ・アイデアを修正し、プレゼンを作成する。(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアを岐阜市役所に持ち込み、提案をする。 ・活動を通して学んだことを振り返り、社会の中で生きている人が障壁を感じることは多様であり、多種多様な人と共に生きていくためにはその人の個性をよく理解していくことが大切であることに気付く。(16)
加筆修正欄				
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・下半身が使えないとバレーボールがより難しく感じた。 ・障がいはその人個人の問題ではなく、周りの環境そのものが障害になる場合あることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「障がいのある方」「外国籍の方」など、今まで自分たちが気付かなかった思いをもって生活をしていることがわかった。 ・多種多様な人たちが共に生きているこの社会を誰もが快適に過ごせるものにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な方の話を聞き、色々な施設を見て自分なりに誰もが快適にすごせるようにするためのアイデアを形にできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって行動することが、社会的障壁をなくしていく上で大切であることがわかった。社会的障壁は、大なり小なり誰もが感じている。だからこそ、同じクラスの仲間や違う学年の仲間との生活においても、その考えを大切にしたい。
実際の姿				
● ジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 車椅子を後ろから押してあげることは、かえって危険なんだ。 ● 障がいのある人が近くにいたら、サポートしていきたい。でもどうサポートすればよいか分からない。 ● 自分の何気ない行動が障害を作っているかもしれない。そういったものを無くしていくにはどうすればよいだろう。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 設備や制度を整えるだけでなく、社会に生きる人たちの意識を変えていくことも大切だとわかった。そのためにはどうすればよいだろう。 ● 人によって得意なことや苦手なことが異なるように、社会的障壁も人によって違う。そういったものを無くしていくために大切なことはなんだろう。 	

7年3組 本時案

(1) 目標

外部講師の方から聞いた話の内容や実際に岐阜駅、メディアコスモスなどに行って様子を見てきた経験をもとに、誰もが快適にすごせる社会をつくるためのアイデアを考え、多種多様な人々の立場にたって計画を立てようとする。(問題解決力)

(2) 道徳的価値判断に関わって

身近にいる人たちの個性や立場を尊重し、相手の立場に立って活動案を見直していく。(相互理解、寛容)

本時 (15/40)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	教師の手立てと見届け
<p>1 前時の活動を振り返る</p> <p>○誰もが快適にすごせる社会をつくるために、これまでどのようなことを学んできましたか。</p> <ul style="list-style-type: none">・ シッティングバレーを体験して、障がいの有無にかかわらずお互いの個性を認め合いながら共に何かに打ち込むことの楽しさを学んだ。・ 高齢者疑似体験を通して、高齢者の方の生活が想像以上に大変だということがわかった。・ 行政書士大橋事務所の方のお話を聞いて、LLGBTQの方の権利が徐々に認められつつあることを知った。・ 岐阜駅やメディアコスモスに行き、様々な人が快適に利用できるような工夫がなされていることを知った。 <p>○学んできたことを生かし、今日はどのようなことを考えますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"><p>誰もが快適にすごせる社会をつくるためのアイデアを考えよう。</p></div> <p>2 テーマ別グループに分かれ、誰もが快適にすごせる社会にするための方法を考える</p> <p><外国籍の方と共に生きる></p> <ul style="list-style-type: none">・ 岐阜市役所の人権啓発センターの方に見せていただいたアンケート結果から、岐阜市に住んでいる外国籍の方が一番望んでいることは、「日本語や日本の文化、社会について知りたい」ということだった。だから、外国籍の方に日本の文化について知ってもらえるようなワークショップを開きたい。でも、外国籍の方が知りがっている日本の文化、社会とはどんなことなのかをもう少し詳しく聞いて計画を立てていきたい。 <p><障がいのある方と共に生きる></p> <ul style="list-style-type: none">・ シッティングバレーボール選手の田中さんの話を聞いて、障がいの有無に関わらず一緒に楽しめるスポーツがたくさんあることを知った。体を動かすことが大変な高齢者の方も障がいのある方も小さな子でも誰もが一緒になって楽しめる会を計画して、年齢関係なくこの街に住む色々な人と楽しい時間を共有できる場を作りたい。 <p><LGBTQの方と共に生きる></p> <ul style="list-style-type: none">・ 行政書士大橋事務所の方の話を聞いて、岐阜県でも9月1日から「パートナーシップ制度」が導入されたことを知った。その制度が導入された経緯や、LGBTQの方が望んでいる声を多くの人に知ってもらえれば、LGBTQの方への理解がさらに深まっていくと思う。そのためのプレゼンを作って、メディアコスモスなどの多くの人が集まる場所で調べたり実際に取材したことを伝えたい。 <p>3 本時の学びの振り返りをワークシートに書く</p> <ul style="list-style-type: none">・ どのグループも「相手の立場にたって物事を考える」ということを大切に方法を考えていた。このアイデアが採用されたらきっと、多くの人が快適にすごせる社会になっていくと思う。しかし、このアイデアが実現できるかや本当に多くの人の幸せにつながるアイデアなのかは、実際に市政を行っている方の意見を聞く必要がある。このアイデアを提案して、採用してもらえるように自分たちの思いを上手く伝えられるような準備をしていきたい。	<p>○これまでに会った講師の方との対話の様子をスライドで振り返り、学んできた内容を想起して課題化ができるようにする。</p> <p>○3人1グループで活動し、テーマ別に小集団に分かれてアイデアを考えることによって、より個人の願いや思いが反映されたアイデアをまとめられるようにする。</p> <p>○岐阜市役所人権啓発センターの方とつなぎ、生徒が相談したいことがあったときに、質問ができるような環境を設定する。また、アイデアがまとまったグループは、自分たちの考えた事を伝え、誰もが快適にすごせる社会につながっていくものになっているかどうか意見をもらう。こうすることで、生徒が主体的に自分の考えを修正し計画を改善していけるようにする。</p> <p>○教師が抽出したグループがアイデアを発表する。そのグループが考えた内容の良いところを交流することで、「相手の立場にたって考えること」の大切さを共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p><p>これまでに体験したことや聞いたことなどをもとに、相手の立場にたって物事を考えながら、誰もが快適にすごせる社会をつくるためのアイデアを考えている。(問題解決力)</p><ul style="list-style-type: none">・ 話し合いでの発言の様子や振り返りのワークシートの記述から見届ける。</div>